粉体工学会25周年を迎えるに当たって

井伊谷 鋼 一

Koichi Iinoya

本会が名古屋において中部粉体工学研究会として弧々の声をあげて以来、多くの方々のご協力によって25年を迎えるに至りましたことは感慨無量であります。これはたまたま開催しました粉体工学の講習会が200名を越える盛況でしたので、技術交流の場として発足した会合でした。新技術社社長の故八木進氏の後援、現鈴鹿高専の木村教授の事務でしばらく活動したあと、5年前に京都へ本部を移すまでは、工業技術院名古屋工業技術試験所の上田企画官のお世話によって発展してきた次第です。粉体工学は化学工学のみならず、機械工学、資源工学、金属工学などの工学分野のほか、薬学、農学、理学、医学など、すべての自然科学分野を横断りにした、まさに学際的であり、技術交流的な工学であります。

この間、刊行物はタイプ印刷資料から月刊誌にまで成長して英文誌も2回出しており、国際集也会大会などに便乗してではありますが、3回ほど開催しております。会員数は会社事業所としては500を超えますし、個人は制限をしており500人程度であります。このようなミニ学会が人並みの行事や刊行物を実施できるのも、役員の献身的奉仕と日本粉体工業協会の目に見えない協力によるものと感謝しております。

さて、25周年を迎えるに当たってささやかながら記念事業を行なおうということになりまして、少なくとも次の二つを企画しておりますので、皆様のご賛同とご協力を得まして順調に実施できますようお願いいたします。

1. 粉体工学国際シンポジウム

明年の化学プラントショーの前週に京都において、欧米の著名な粉体工学者数名を招待して2日間、2会場程度の規模で計画しております。また同時期に東京で粉体工業協会主催の国際フォーラムも考えております。会員のお知り合いの外人の方々にも来日を勧誘していただ

ければ幸甚と存じます。なお、本計画は名大の神保教授を委員長として主に名古屋地区の委員の方々によって進められております。

2. 粉体工学用語辞典

化学工学辞典などかなりの粉体関連の用語が出てはいますが、出来るだけ選定された用語と統一した解釈をまとめてみる目的で、用語委員会が5年間にわたり検討を重ねてまいりました。2回にわたる公開討論会と会誌掲載によって昨年末一応の結論を得ましたので、本年は編集委員会を発足させ、出版にこぎつけたいと存じます。なおまだ種々ご意見もあろうかと存じますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、本計画は富山大学の故沢島教授を委員長として進めていただきましたので、本書は同教授の追悼の意味も兼ねております。そのあとは大阪市大の森島助教授に作業部会長兼委員長代理として最終案をまとめていただきました。

このほかにも国内行事として総会において記念講演や功労者の表彰などを行なうことも考えられますし、工学会のマークをあしらったバッジかピンを、この機会につくことも長年の懸案の実現として検討いたしております。またこれを機会にグループ会の発展した部会をつくることも、部門別の発展のために望ましいのではないかと個人的には考えております。いずれにしても派手な行事やお祭り騒ぎではなく、簡素で実質的に有意義な、そして将来に残る事業をいたしたいと存じておりますので、会員の皆様の積極的なご協力とご参加をぜひともお願いいたします。次の50周年までの25年間の精進を誓い合い、粉体工学の花が咲く21世紀への第一歩をあらためて踏み出すのにふさわしい企画をしたいと思います。

(京大教授 [工学部化学工学教室]、本会会長)